

東日本大震災から間もなく2年

被災した子どものケアと災害を背景に発生する子ども虐待について ～親と子への支援、「プレイメーカー・プロジェクト」実践報告～

2010年3月11日に発生した東日本大震災は、岩手県、宮城県、福島県などに、大地震と大津波による広域大災害を引き起こしました。被災から2年になろうとしています。被災して心に傷を負った子どもの発見とケアが進んでいません。また、被災によって安住に地、家や仕事を奪われるなどして不安定になった家庭で、子ども虐待が発生しているとの報告が相ついでいます。

この度の講演会は、今年4月27日に開催した『大災害で被災した子どもを救う“プレイメーカー・プロジェクト”』—子どものそばにいる人や、保育士や教師などによる傷ついた子どもの「発見」と「ケア」—に引き続き行うもので、世界の小児病院の最高峰と称されるアメリカのボストン小児病院から、様々な困難を抱える子どものケアに当たってきたソーシャルワーカーのAllison Scobie-Carrollさんと、アメリカの災害現場でボランティア活動をされてきた江津秀恵さんをお招きして、日本が抱えている課題と対応策、提言などについてお話いただきます。

また、東日本大震災発生直後から被災地に入り、子どものケアに当たってきた児童精神科医の本間博彰さんには、「プレイメーカー・プロジェクト」の実践報告とともに、大災害で被災した子どものケアに関する考え方や課題、今後の展望、要望などについてお話いただきます。

子どもに関わる関係者やNPO活動、企業の社会貢献に携わる方々にもご参加いただきたい企画です。奮ってご参加ください。

*「プレイメーカー・プロジェクト」については、裏面の案内をご覧ください。

■日時:平成24年12月18日(火) 開場:10時 開演:10時30分

■場所:国立オリンピック記念青少年総合センター国際会議室

参加費:無料 事前登録制:詳細裏面

10時30分 開会あいさつ、講師紹介

10時50分～12時10分

「様々な災害と子どもの虐待への対応、～ミシシッピのハリケーンカテリーナ後の家族問題や他国で見られる子ども虐待の実態及び孤児や遺児への支援・ケアについて～」

江津秀恵 ポストン小児病院ソーシャルワーカー、シモンズ大学講師

—昼食の用意はありませんので、センター施設内で召し上がるか、各自でご用意ください—

13時00分～14時20分

「東日本大震災を生き延びた子どもから学ぶ子どもの強さともろさ、プレイメーカー・プロジェクトの実践報告」

本間博彰 宮城県こども総合センター所長 児童精神科医

14時20分～16時20分

「様々な虐待の犠牲となった子どもを守るアメリカの制度について～里親と子ども虐待に対する取り組み～」

Allison Scobie-Carroll ポストン小児病院ソーシャルワーカー、ボストンカレッジ大学講師

16時30分 閉会

主催 宮城県子ども総合センター 特定非営利活動法人 児童虐待防止全国ネットワーク

協賛 アメリカン・エクスプレス・インターナショナル, Inc.

協力 公益社団法人 日本フィランソロピー協会
公益財団法人 明治安田こころの健康財団



子ども虐待防止
オレンジリボン運動

■講師紹介

Allison Scobie-Carroll,

ボストン小児病院の100名を超えるソーシャルワーク部門のディレクター。ホームレスの家族の支援や思春期の女の子専用の施設のディレクターを勤めるなど多彩な臨床経験を積み、2003年からはボストン小児病院のChild Protection Team(CPT)のメンバーとなり、2005年にCPTのディレクターを務め、9年間児童虐待の専門家として活躍。また、法廷や州議会などで児童虐待について証言や時には擁護活動に尽力し、国内のみならず海外からも相談を受けている。

江津秀恵氏

ボストン小児病院のソーシャルワーカー。阪神淡路大震災で甚大な被害を被った神戸や家族への痛恨の思いからアメリカ赤十字の災害ボランティアとしての訓練と実践を積む。東日本大震災の際には、宮城県の気仙沼に心のケアのメンバーとして尽力した。災害ボランティアの経験をもとに、アメリカの多くの機関と人々の支援を得て、日本がこれから長く取り組む「災害と子どもの心のケア」に対する知識と技術習得のための本格的な研修を実現させた。

本間博彰

被災直後に「子どもの心のケアチーム」を創設して、日本では初めて長期的で、本格的な、「災害と子どものメンタルヘルス活動」に取り組んでいる。震災以前は、児童虐待対策に長くかかわり、特に厚生労働省の研究でもあった児童虐待の早期予防としての「産後うつ病」対策に取り組み、宮城県に産後うつ病対策システムの構築に努めた。

■「プレイメーカー・プロジェクト」とは

人災や自然災害によって深刻なトラウマをうけた子どもに、遊びを通して、癒しと力を与えるための知識と技術を学ぶプロジェクトです。研修対象者は、子ども達にケアを行なえる保育士や教師、NPO関係者など最前線にいる方々です。

子どもの「遊び」が持つ強力な力を、どのような配慮のもとで、どのように展開すれば「発見」と「ケア」につなげることができるのかについて、実践者を育てようと、1989年からアメリカ全土でスタートした取り組みです。

■日本におけるこのプロジェクトは、宮城県子ども総合センターの本間博彰医師を中心に進められています。東日本大震災で被災し、心に傷を負った子どもたちを救いたい、という強い思いから、アメリカのボストンで研修を受け、日本の関係者に広めようとしています。この活動を、児童虐待防止全国ネットワーク、日本フィランソロピー協会、アメリカン・エクスプレス・インターナショナル、明治安田こころの健康財団が応援しています。

申し込み方法：事前申し込み制

■申し込みはファックスまたはメールでお申し込みください

受付団体：NPO 法人児童虐待防止全国ネットワーク

◆メールによるお申し込みは：info@orangeribbon.jp

◆ファックスによるお申し込みは：03-6380-6380

記入事項（必ずすべてご記入ください）：お名前、ご住所、年齢、職業（職種）、
メール申込者はメールアドレス、ファックスでお申し込みの方はファックス番号

■予定人数を超え、参加をお受けできない場合のみ、ご連絡を致します。連絡先を忘れずにご記入ください。

◆お問い合わせ先 NPO 法人児童虐待防止全国ネットワーク

156-0043 東京都世田谷区松原1-38-19-502 tel/fax.03-6380-6380

メール：info@orangeribbon.jp



■会場とアクセスのご案内

国立オリンピック記念青少年総合センター

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

TEL 03-3469-2525

■東京駅から

JR中央線 約14分 新宿駅乗り換え

小田急線 各駅停車 約3分 参宮橋駅 下車徒歩約7分

■小田急線

参宮橋駅下車 徒歩約7分

■地下鉄千代田線

代々木公園駅(C02)下車（代々木公園方面4番出口）徒歩約10分

■京王バス

新宿駅西口(16番)より 代々木5丁目下車

渋谷駅西口(14番)より 代々木5丁目下車